

（１）四国中央ブロック（四国中央市）

～産地づくり～

県内最大の生産量を誇る「さといも」「やまのいも」「茶」の産地が形成されていますが、高齢化や担い手不足等により産地の維持・拡大が課題となっているため、高品質な安定生産技術の普及等を通じて、出口戦略を見据えた産地づくりの強化を目指します。

～推進品目や産地づくりの方向～

○「さといも」の生産・品質の安定化による産地強化

【取組】

- ① スマート農機（ドローン）を活用した省力化防除の実証
- ② 収穫・出荷作業の省力化に「鉄コンテナ」を利用する大規模栽培者を育成
- ③ 夏季高温による軟腐病の発生実態調査（83戸）と、防除対策セミナーの開催（225人）

【成果】

- ① JAファームうま等と連携した防除実証：2.0ha〔R5：1.8ha〕
- ② 鉄コンテナ出荷農家：6人〔R5：5人〕
- ③ 7割の農家で軟腐病が多発。排水対策や防除の重要性を認識



ドローン防除

○「やまのいも」の省力高品質多収技術とブランド化による産地拡大

【取組】

- ① 産地の維持・強化に向け、やまじ丸生産振興協議会（市、JA、生産者等）で目標を共有し、連携して活動
※「やまじ丸」（R元.7商標登録）は、県農林水産研究所が開発した、やまのいもの「やまじ王」を、四国中央市内で栽培したもの
- ② 省力安定生産のため、省力支柱（アーチ）栽培等を実証
- ③ 地域での知名度向上のための学校給食提供、産業祭PR

【成果】

- ・生産量：104t〔R5：124t、R4：102t、R3：125t〕
 - ・生産額：4,650万円〔R5：5,770万円、R4：4,600万円、R3：4,250万円〕
- ①③「やまじ丸」を学校給食で提供：1回〔R5：3回、R4：5回〕



実証圃での現地研修

○ブランド「結の霧ひめ」を活用した茶産地の活性化

【取組】

- ・四国中央市の茶産地の愛称「結の霧ひめ（R4.1商標登録）」を用いて、山里の特色あるお茶をSNS配信するとともに、首都圏等で販促活動を展開
- ・茶摘みや手もみ茶体験、お茶の淹れ方講座と試飲等を実施し、生産者のこだわりやお茶の魅力をPR

【成果】

- ・荒茶生産量：21t〔R5：22t、R4：18t〕
- ・生産額：5,300万円〔R5：6,200万円、R4：5,400万円〕
- ・結の霧ひめ 販売数：1,900袋〔R5：3,400袋、R4：2,400袋〕



お茶の魅力発信

～地域づくり～

地域農業を維持・発展させるため、四国中央市農業振興センター（四国中央市、JAうま、四国中央農業指導班等で構成）では、青年農業者や認定農業者、女性、農業参入企業等多様な担い手を確保します。また、就農後も支援を継続することで、地域を支える農業者を育成し、鳥獣被害対策の強化や地産地消の推進等による地域づくりを進めます。

～推進対象や地域づくりの方向～

○地域農業を支える担い手の確保育成

【取組】

- ① 農業振興センター企画委員会を開催し、関係機関・団体と情報共有を図ったほか、認定・青年農業者等への情報提供を推進
- ② 就農希望に即した就農相談や新規就農者の経営相談を実施

【成果】

- ① 連携会議の開催：12回
- ②
 - ・就農相談件数：3人
 - ・新規就農者の確保：1経営体



新規就農者に技術指導

○鳥獣被害に強い集落づくりによる生産基盤の維持

【取組】

- ・市内全域の農産物被害状況を把握して、集落ぐるみで対策を実施する重点指導地域を選定。人材育成・被害対策活動を強化
- ・鳥獣害防止施設の有効活用を推進

【成果】

- ・重点指導地域の被害状況の調査：3か所
- ・遠隔監視装置付き捕獲檻及び地獄檻の活用指導：3か所
サル捕獲頭数：52頭〔R5：29頭、R4：27頭〕
- ・重点指導地域1か所において、サルの加害レベル低減を確認



大型捕獲檻で餌付けする農業者

○地産地消の推進

【取組】

- ・地元産の米や野菜、果物を使った食事を学校給食や子ども食堂等で提供して、地域内のつながりを向上

※平成17年、「『食育』に根ざした『地産地消』を推進する都市宣言」を行い、市内全域の小・中学校の学校給食米は、全てエコえひめ認証を受けた地元産を使用し、直売所でも「うまそだち」のブランド名で販売中

【成果】

- ・学校給食野菜・果実供給率：19.2%（目標：40%）
〔R5：29.4%、R4：30.7%、R3：33.4%〕
- ・エコえひめ認証米「うまそだち」栽培面積：39.1ha
〔R5：45.0ha、R4：43.8ha、R3：44.3ha〕
- ・産直市販売額：8.2億円
〔R5：6.9億円、R4：6.6億円、R3：6.5億円〕



学校給食米の収穫イベント

～水田のほ場整備を推進して農地集積を図ります～

○大区画化により担い手への農地の集積・集約化を目指す

【取組】

- ・ほ場整備の実施に向けた話し合いの実施
（整備構想、地元の合意形成、事業区域の選定など）

【成果】

- ・関地区：9月と12月に地元関係者との話し合いを実施
2月に地権者を対象とした説明会を実施



地権者への説明会

～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し、畜産基盤の承継を図ります～

○地域畜産ブランドの販売力強化

【取組】

- ① 法人の経営安定化支援（対象：新規就農者2人）
- ② 大規模飼養に対応した平飼い施設導入による、付加価値の高い販売体制の確立（対象：1戸）

【成果】

- ① 補助事業の受け皿となる地域協議会への加入
- ② 平飼いによる飼養及び出荷販売を開始



平飼い鶏舎による飼養